国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism
Press Release

令和6年11月14日
国土政策局地方政策課

厚真町・勝浦町・薩摩川内市の地域づくり３団体が「国土交通大臣賞」を受賞

～「新時代に地域力をつなぐ国土」を体現する9団体を
令和6年度「地域づくり表彰」受賞団体に決定～

国土交通省は、関係団体との共催・後援で、創意・工夫ある「地域づくり」活動の優良事例を表彰する**「地域づくり表彰」**を、昭和59(1984)年以来、実施してきています。
今年度は、デジタルを活用した困りごと支援、地区のマイナス要素を逆手にとったイベントで賑わいを創出した事例、古民家の再生を契機に多様な雇用を創出した事例、スポーツで若い人を惹きつけ多様な活動に展開した事例等の優良な9事例について、**「国土交通大臣賞」**等で表彰することと致しました。

いずれも、それぞれの課題解決を契機にして、地域の持続可能性の向上・拡大に繋げている取組です。
これらは、国土づくりの目標として、**「新時代に地域力をつなぐ国土」**を掲げ、昨年7月に閣議決定された、**「第三次 国土形成計画（全国計画）」にも呼応するもの**で、**「持続可能な生活圏の再構築」**や、**「地域を支える人材の確保・育成」**といった重要施策に対応する**先進的取組**と言えます。

各受賞団体には、受賞を契機に更なる活発な活動の展開を、また、全国各地の皆様には、各事例をご参照いただき、地域の課題の克服や魅力の向上に向けた取組の更なる進展を期待しております。

○ 主 催：国土交通省、 全国地域づくり推進協議会*、 一般財団法人 国土計画協会
　後 援：株式会社 日本政策投資銀行
○ 本表彰制度は、**昭和59(1984)年**に始まり、**今回で41回目**
○ 今年度は、全国各地から**45団体**が推薦され(昨年度41団体)、うち**9団体**(昨年度8団体)を表彰
○ 各受賞団体の「活動概要・選定理由等」は別添資料1、「審査後の総評」は別添資料2、
　「委員名簿」は別添資料3、「国土形成計画(全国計画)概要」については、別添資料4を参照
○ 各団体の取組の詳細や表彰の様子等は、国土交通省サイト及び特設サイト(※)で紹介
　(※)「地域づくり表彰」特設サイト(一般財団法人 国土計画協会) **https://www.chiikizukuri.kok.or.jp/**
○「第三次国土形成計画(全国計画)」 **https://www.mlit.go.jp/kokudoseisaku/kokudokeikaku_fr3_000003.html**

表彰名	受賞団体名または活動名(所在地)　(全国地方公共団体コード順)
国土交通大臣賞	**共助型困りごと解決サービス「ミーツ」(北海道厚真町)**
	さかもと元気ネットワーク(徳島県勝浦町)
	東シナ海の小さな島ブランド株式会社(鹿児島県薩摩川内市)
全国地域づくり推進協議会 会長賞	「まちあそび」と「まちこらぼ」で取り組む ゆるい まちづくり(新潟県燕市)
	下津井シービレッジプロジェクト(岡山県倉敷市)
国土計画協会会長賞	「島の人をつなぐ」＝奈留まち協もやい場(長崎県五島市)
日本政策投資銀行賞	3X3 KUKI 実行委員会(埼玉県久喜市)
地域づくり表彰審査会 特別賞	一般社団法人「釜川から育む会」(栃木県宇都宮市)
	Shingashiめぐり・わくわくフェスティバル実行委員会(埼玉県川越市)

*:「全国地域づくり推進協議会」は、地域づくり活動の発展・拡大に資することを目的とした地方公共団体からなる協議会
○ 表彰式の日時・場所等については、各自治体(別添資料1参照)にお問合せください

「地域づくり表彰」の詳細、過去の事例については
地域づくり表彰　で検索を

問合せ先：
国土政策局 地方政策課　渡部、地域振興課　馬場
電話：03-5253-8111　(内線29-404、29-584)
直通：03-5253-8404

別添資料１

国土交通大臣賞　（総合的に最も優れた取組）　３事例　（全国地方公共団体コード順）

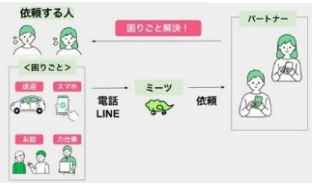
共助型困りごと解決サービス「ミーツ」（北海道 厚真町（あつまちょう））

詳しくはこちらを→

●活動概要●「困っている人」と「できる人」をデジタルで「結びつけ」。新たな「出会い」の芽にも

住民の困りごとを電話かLINEで依頼、それをデジタル化し、地域の協力者に配信し、対応可能な人とマッチング（ミーツ）。受援者片方のみの利益でなく、支援者も新たな出会い（ミーツ）の芽が得られる取組。**地域の問題解決から生まれる新たなコミュニティ**が広がり、住民同士が「**長屋の家族**」のように結びついていく。困りごと解決後の「おたより」の投稿から、地域の困りごとの可視化も実現。

DXといいつつ、敷居を低くあえて電話での依頼も可能とした「**泥臭いローカルDX**」を心がけた。



お手伝い案件をデジタル化しマッチング

●選定理由● **地域にいる人をデジタルで地域資源化：　敷居の低いDXで、地域の課題解決と新たな交流、地域課題の可視化を同時実現する「地域生活圏」の形成に資する事例**

人口減少社会においては行政ができるサービスは限りがあり、増える高齢者の困りごとをどのように解決していくかは喫緊の課題。「地域で互助・共助を」といっても、その実現手段はなかなか見つけがたいなか、地に足が付いたシステムで、**忌避感無くDXを実現**し、住民のニーズとシーズを組合せ、更に**「地域の困りごと」を可視化**していく取組は、今後の我が国地域にとって大きな示唆を与えるものと言え、新たな国土形成計画で提唱された「**デジタルとリアルが融合した地域生活圏**」の実現にも資する。

「ミーツ」を訪ねた町民と記念撮影

■問合せ先■　厚真町　まちづくり推進課　　☎ 0145-27-3179（課直通）

さかもと元気ネットワーク（徳島県 勝浦町（かつうらちょう））

詳しくはこちらを→

●活動概要●「地区の激坂を逆手に・仕舞われてた着物に出番を」：ここにあるもの活かし若者に出番を

山あいな地区のハンディを逆手にとった「**坂道マラソン**」や、家の奥に仕舞われていたままの古い着物を集めての「**きもの祭り**」など、地域のハンディやポテンシャルを活かしたユニークなイベントで、地域の元気を創出。年配者はあえて支援側に回り、若者中心のプロジェクトチームを前面に出して企画・運営。小規模の地区だけに、これらの**開催にあたっては、地域外からも大勢のボランティアの助けも得て**実施。

若い人たちが着物を着て楽しんでいる様子を見て、提供者のお年寄りも嬉しい涙。

住民に**「やればできるんだ」という自信**が生まれ、地区への若い人のIターンが増えるという効果も。

地区名と激坂を活かした
「さかもと坂道マラソン」

●選定理由● **賑わいをあきらめない：地域総掛かりで、楽しくできることを考え、地域の資源に命を「いまあるもの」を活用し、足りない人手は地域外の協力も得て新たな関係人口づくりにも**

本当に何もなさそうなところから、創意工夫だけで「地域づくり」にもっていくことがすばらしい。また、着物を着て散策してみたいという若い女性や外国人のニーズをうまく捉え、家で眠っている古着に目を付け、活用に結びつけた発想も面白い。地域の人が「**わくわくしながら**」地域の資源を活かして**何か楽しいことができないか**と考え、次なる企画につながっていくという**良い循環が生まれている**。

ハンディも資源と考え、**「光の当て方」と「面白がる気持ち」**だけでこんなにもまちは元気になることを教えてくれており、このことは他の地域にもヒントにもなり、元気を与えてくれる事例と言える。

訪問者が着物を着てひな祭りを楽しむ

■問合せ先■　勝浦町　企画交流課　☎ 0885-42-2552（課直通）

東シナ海の小さな島ブランド株式会社（鹿児島県 薩摩川内市（さつませんだいし））

詳しくはこちらを→

●活動概要●「多角的な事業展開で“懐かしい未来の風景”をデザインする」：若年移住者の雇用を創出しつつ、島同士の連携により課題解決に向けた取組を推進

島の原風景を取り戻そうと、耕作放棄地の再生から米作り等の農業に、その無人販売から、島に訪れる人の目的になるべく商店を開き、さらに通販や宿泊施設などを展開。**取組が取組を呼び**、17もの多様な事業を展開。そのなかには、地元の高齢者がその来訪を待ち望む、豆腐の昔ながらの移動販売も含み、好評を得ている。古民家を改造したベーカリーでは、高齢者会のサロン等、島民の憩いの場にもなっていて、近年は、**空き家等の管理を行う会社も創業**し、島外の移住者の相談も受けている。

島の課題を、成長のエンジンに転換する事業づくりと、さらには近隣の離島と連携して課題解決を目指す「**鹿児島離島文化経済圏**」の立ち上げなど、**次世代へつなぐ島の経営**に取り組んでいる。

築150年超の古民家をパン屋に

●選定理由● **島の風景を守るため、経済の島内循環を生む多業種を展開、若者の雇用を創出した**

我が国の各地で「産業がない」「不便」などネガティブな要素から、人口流出が大きな課題となっているが、**島ならではの価値にしっかりと光を当てる**ことで、新たな業態に広がっており、今の感性が加わったデザインも重視した取組は、新たな魅力も生み出している。雇用を重視し、雇用協議会を発足させ、島に若者を中心とした18名という雇用を生んだこと、３ヶ月のお試し滞在の機会を創出したことも高く評価できる。人口3600人高齢化率５割の離島での多彩な取組は、離島だけでなく他の条件不利地域の地域づくりにも大いにお手本となる取組といえる。また、県内外の離島同士の地域の課題解決のための**広域的なネットワークづくり**の取組も素晴らしく、今後、より広い展開が期待される。

「鹿児島離島文化圏」各離島と
課題解決のネットワーク形成

■問合せ先■　薩摩川内市　未来政策部　企画政策課　　☎ 0996-23-5111（内線4842）

全国地域づくり推進協議会会長賞　（地域活性化の観点で優れた取組）　２事例（全国地方公共団体コード順）

「まちあそび」と「まちこらぼ」で取り組む ゆるい まちづくり（新潟県 燕市）

詳しくはこちら→

●活動概要● **「まちあそび」を軸に、地域の大人とのコラボを通じ、若者がまちづくりに参画**

燕市「まちあそび部」は、高校生がまちの中で「あそび」ながら地域の魅力を発見していく活動。**高校生自身が「わくわく」するプロセスを楽しむこと**を第一義とし、それを地域や大人が支えることで、「若者会議」の活性化を図った。また、従来は単独完結型のプロジェクトやイベントが多かったところ、「燕市内市の場所」「燕市のモノ」「燕市の大人」と**一緒に活動（コラボ）することをルール化**し、高校生と高校生以外の大人との協働事業も増加した。　「**企画はゆるく**」しかし可能なものは１週間で実行する**「スピード感」も**重視。実際に若者会議を卒業してからも地域のために主体的に活動している人も増えている。

「ゆるい」アイデア出し

●選定理由● **地域資源の活用を前提に、自由な発想を重視する取組は、若者の参加・地域協働のヒントになる**

成果ありきでなく、若者の内発的な「**楽しさ**」「**わくわく感**」**を大事に**したしくみづくりにすることで、モチベーションを高め、また地元のリソース（場所・もの・ひと）を活用することをルール化することで、自分たち以外の**大人と協働していくきっかけづくり**としたことは、**大人の側に与える好影響も**見込め興味深い。

若者が、まちの資源を使い、自由に楽しんで連携できる手応えを得ることは、卒業後にも地域への愛着を生むことに繋がり、高校生以降の同様のグループへの参加へのバトンタッチや、地域への定着・Uターンにもプラスに働くものと期待され、**未来のまちの担い手や人と人との繋がりを育てる仕組み**として注目したい。

道の駅で、高校生が
発案のおにぎりの販売

■問合せ先■　燕市　企画財政部　地域振興課　☎ 0256-77-8364（課直通）

下津井シービレッジプロジェクト（岡山県 倉敷市）

詳しくはこちら→

●活動概要● **かつて北前船で栄えた港町の町家の保全等を通じ、域内外の「人」を巻き込みながら、域内のお金の循環を生み出し、移住者や新たな事業者を増やし、次世代を担う人材を育成**

町家の取り壊し危機をきっかけにキーマンが結集。「町を元気に、活気を取り戻そう」と有志でプロジェクトを立上げたが、そのうち地区が抱える他の問題にも直面し、それらの解決も目指すことに。

空き家再生、マルシェ実施、移住者の誘致・相談、観光促進等、**多面的な地域活性化活動に進化**。

「若者が若者を呼ぶ」という好循環が生まれ、空き家への入居者や事業者も増加。

新たな賑わいを創出し、地域内の人流が増え、既存店舗にも好影響。

企業経営という観点を大事に、**後継者の育成を視野に**人材育成にも重点を置く。

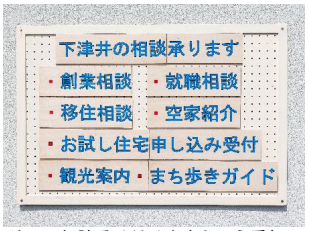
マルシェの実施で、賑わいを創出

●選定理由● **問題解決に持続可能性と広がりを付与するため社会的起業し、地区外の人も巻き込み、地域にお金が回るシステムの構築等の明快な経営理念のもと、地区の賑わいを生み、移住者の増加を実現した**

人材と資金の不足への対応や地元との摩擦の回避のため、月に１～２回の**定例会を７年以上も継続**。

地域住民と移住者との交流イベントの実施等、「フェイス・トゥ・フェイス」の顔なじみの関係づくりを重視した結果、相互の信頼感の醸成や新たなメンバーの参画等が実現。

次々と多岐にわたる地域づくりメニューを増やしたことを可能としたプロセスは他地区にも参考になる。



地区の相談受け付けますという看板

■問合せ先■　倉敷市　企画経営室　くらしき移住定住推進室　☎ 086-426-3153（課直通）

国土計画協会会長賞　（国土づくり・地域づくりの観点から注目された取組）　１事例

「島の人をつなぐ」＝奈留まち協もやい場（長崎県 五島市）

詳しくはこちら→

●活動概要● **積み重ねた話し合いにより実現！島の魅力のサカナと交流の拠点としての「もやい場」づくり**

毎月開催されるまちづくり協議会の定例会の中で、「**漁業の島なのに地魚を楽しめる店がない**」という課題が浮上。そこから、課題解決に向け、さらに話し合いを重ねながら、クラウドファンディング等で資金を集め、空き店舗を活用した食堂「もやい場」を開業。それまで江上集落（世界遺産）に立ち寄るだけだった島の観光コースに「もやい場での食事」が追加されたり、「もやい場」に来ることが来島の目的となるなど、島の**新たな立ち寄り先を創出**できた。また、「もやい場」は**島の人々が集う場**としても機能しており、商品販売やワークショップの場としても活用。**島内外の子供達が接客を体験**するイベントも開催。

「もやい場」で地魚を調理するのは
地元住民の調理の腕自慢の方々

●選定理由● **島民の意思を一つに「新たな拠点」づくりで島内外の人達との交流機会を創出.島の認知度を向上**

まちづくり協議会のLINEには、奈留島の**人口の半数以上の人が登録**し、対面での定例会にも多くの方が参加。地域の弱点を話しあい地元の人にとっては普段食べているものを魅力あるものとしてキチンと認知。50回もの協議の結果として､住民総掛かりで島の魅力を伝える象徴的な場が出来上がったことは素晴らしい。

また、外から来た方との交流を通じて、島の魅力を再発見して島を好きになり、お土産づくりにつながったり、地域住民同士の交流、絆づくりにもつながっている。

こどもたちの接客体験事業など、**住民が明るく、仲良く幸せに暮らし温かく迎えてくれていることが、外から来る人にとっては一番の魅力**でありリピーターにもなりえる。

「**島に来てくれて嬉しい**」「**奈留のいいところを伝えたい**」という気持ちの地元の方が、「もやい場」に集まってくることで、食事に来た**お客様との会話から地域の課題解決のヒント**を得た事例や、来客を機に地域全体の**住民側の接客意識が高まってきて**いる等の好循環が生まれている。

単に食材だけでなく、地元の方の**「奈留が大好き」を伝搬する場**として今後の展開も期待できる。

島内外のこどもたちに、食事の提供や
接客体験させる「どがんねキッズ」

■問合せ先■　五島市　地域振興部　地域協働課　☎ 0959-76-3070（課直通）

日本政策投資銀行賞　（地域経済･産業振興上注目された取組）　１事例

３Ｘ３　ＫＵＫＩ 実行委員会　（埼玉県久喜市）

詳しくはこちらを→

●活動概要●　**スポーツの普及活動と地域づくりが一体となって地域の盛り上げを図っている**

３人制バスケ「3X3（スリー・エックス・スリー）」で日本一になった地元高校バスケ部の生徒が、こども食堂の**ボランティアを行ったことを契機**に、今度はこども食堂のスタッフが「3X3を応援して市の活性化につなげたい」と奮起。以来、地域の諸団体やプロチームも巻き込んで、幅広い地域活動を展開している。

バスケの試合を盛り上げるだけでなく、**こどもたちの参画**を目して小学生大会を開催。そこに連携してマルシェを展開。更にそこで、こども食堂向けに、余った食品を集める窓口を設置したり、終了後のゴミ拾いを選手・保護者・観客などで行うなど、地域づくり活動と一体化。「3X3」のイベントを開催するたびに、様々なステークホルダーと連携し、特産物の共同開発や、被災地への応援企画など、地域を考え、地域外の人も含め、**地域づくりの担い手を増やし続けている仕組み**が正のループとなり、活動に力を与えている。

90以上のチームが参加した
小学生3X3大会

●選定理由●　**「誰もが主体的に関われるまちづくり」というコンセプトで、スポーツの振興と社会的包摂活動・こどもの参画とを巧みに融合させることで、地域の個性と元気を作り上げた好事例**

少人数でもプレイでき、大会規模も徐々に増やすことのできる３人制バスケの長所に着目し、競技の普及と地域の盛り上げ、**福祉活動と関係人口を増やす交流事業を同時実現**する仕組みを企画・実施し、子どもからお年寄りまで、地域内外の、幅広い年代が、楽しく賑わいの場を創出する試みは、様々な示唆に富む。

更には、「アンダー15チーム」の創設や、**部活の地域移行**など**地域課題の解決を先取りする取組**や、こどもたちへのコーチングでは多文化共生の入口にもなっている等、含みも大きい。

スポーツや健康づくりと地域づくりの好循環は、バスケ以外の他の分野でも展開可能と思われ、他地域にも少なくない示唆があると思われる。地域と民間と行政の協働で、新しい競技をテーマに**市に新たなアイデンティティを付与**できたことは、関係人口の増大や、社会･経済的な効果も期待され、今後の展開も注目したい。

会場では、学生ボランティアが
こども食堂に食品を寄付する窓口も開設

■問合せ先■　久喜市　健康スポーツ部　スポーツ振興課　　☎ 0480-22-1111（代表）

地域づくり表彰審査会 特別賞　（審査会で特に注目された取組）　２事例（全国地方公共団体コード順）

一般社団法人「釜川から育む会」（栃木県宇都宮市）

詳しくはこちらを→

●活動概要●　**「人」と「まち」をかけあわせ、クリエイティブな力を活かすなど、官民の不動産を地域資源として最大限に活かしながら、未来を展望する活動を展開**

市の中心市街地を流れる河川周辺の**空き地、空きビル等の遊休不動産を活用**し、①人と生き物の共生推進事業、②低未利用地の利活用事業、③学びと交流の場の形成事業を展開。有識者から助言を受けながら、その実行の場として、市・地元自治会・商店街振興組合・商店会等と連携したエリアプラットフォーム「カマクリ協議会」の一員として、**官有地と民有地の一体的な利活用**を図るとともに、「みんなでつくる釜川ミライ」の実現に向け、リノベーションした空間を会場に、レクチャーイベントや親子向けワークショップ等を開催している。

川沿いの築70年の空店舗を、多目的空間に
学生と地元の人々の手でリノベーション

●選定理由●　**釜川エリアの界隈性を活かし、専門家や地域外の人も巻き込んで、わくわくするような拠点づくりやイベントの開催で、多くの関係人口を生み出し続けていること**

市の中心部にありながら、負のイメージから賑わいがなくなっていた河畔エリアを、自然を楽しみながら人が交流するエリアに再生させようという取組。地元大学の学生らが、法人を立ち上げ、自らが主体と成るべく、**資金調達し遊休不動産を購入**、アート・自然というコンセプトのもとにクリエイティブで魅力的な地区に再生させようと当事者となっており、若い世代が自分たちで関係者を巻き込みつつ、**未来の空間を創出したいという強い思い**が感じられる。「**200年以上続く組織に育てたい**」という未来志向な心意気と、官民の支援も得つつ、地道に空間整備の当事者として実績を積み上げつつ、稼げる仕組みをつくることで持続可能性を確保する等の堅実な取組も評価したい。

釜川のまちづくりのヒントとなる取組の
レクチャーとディスカッションを実施

■問合せ先■　宇都宮市　都市整備部　ＮＣＣ推進課　☎ 028-632-2108（課直通）

Shingashiめぐり・わくわくフェスティバル実行委員会（埼玉県川越市）

詳しくはこちらを→

●活動概要●　**駅橋上化をきっかけに、イベントの実行委を協働で運営、東西交流に繋げた**

新河岸地区は、かつては近世川越の発展を担っていた舟運の地だったが、道路や鉄道の発展で東西が分離し市外に通勤通学する住民が住むことでベッドタウン化し地域の住民同士のつながりが薄れていたところ、駅が**橋上化することをきっかけに**、地域商店会、自治会、住民、学校、企業、行政が一体となって様々なイベントを企画立案し実行。**まちづくりを考えるきっかけ**となり担い手も増えた。

中学生による舟運体験の受付ボランティア

●選定理由●　**まちの次世代を担うこどもたちを、イベントの運営側に取り込む環境づくりを評価**

「昔はにぎわいがあったが、ベッドタウンになり特徴のない街になってしまった」このような地区は日本全国にあると思うが、きっかけを見つけることができず、協働の機運も生まれにくいことが多い中で、本件では、駅の橋上化をきっかけに、商店街や学校、企業もまきこみながら、住民がわくわくし笑顔になるようなイベントを次々と開催している。更に、こどもらを、単にイベントの享受者に留めず**企画側・運営側に巻き込む仕組みづくり**が素晴らしい。こどもらが、自分たちのふるさととして、**地区の歴史に思いいたし好きになる機会を創出**することは、地区の持続可能性の向上に繋がる。

高校生が運営するミニ電車乗車体験

■問合せ先■　川越市　都市計画部　新河岸駅周辺地区整備事務所　☎ 049-244-5588（課直通）

別添資料2

令和6年度「地域づくり表彰」 審査後の総評

本年度の審査を振り返りますと、最優秀賞にあたる「国土交通大臣賞」3事例を見ても、それぞれがユニークな方向性を持っており、「**地域づくりとは**こういうものでなければいけない」ということを**先に決めることができない**、あるいは類型化することの難しさに思い至りました。

「社会起業型」の健闘ぶりが目立った

「地域づくり」の取組を、仕組みや運営の方法で分けると、大きくは、住民や民間が主導する「**社会起業型**」と、既存組織や自治体との距離がかなり近い「**委員会・会議型**」に分類できますが、本年度は、住民・民間主導で活動を拡げていく「**社会起業型**」の健闘ぶりが目立っていたと思います。

早い時期から 担い手を広げていく工夫を組み込み

各事例から「**地域づくりの取組を回す原動力とは何か**」ということを考えますと、第一は「**人のつながり**」で、その形成の仕方の工夫により、担い手の範囲が拡大し、数が増え、結果として、取組の持続可能性につながっていたと思います。その点で、今年の全ての事例に共通していることとして、**早い時期から「担い手を広げていくこと」を強く意識**されており、それが取組の拡がりや新たなアイディアの取り込みに繋がっていたように伺えました。

支援してもらえる「仕組みの工夫」にも注目

その上で、**支援をしてもらえる「仕組み」の工夫**も注目されました。取組を持続可能・発展可能なものにしていくために、株式会社の起業や、広く関係者を巻き込んだ協議会を立ち上げることなども、足元を固め、**「地域ごと」を「わがごと」と考える主体**を増やす観点から大切なことだと思います。

特に今年度の優良事例では、自分たちだけでは手数(てかず)的に・ノウハウ的に難しい部分を冷静に認識し、こだわり無く**積極的に外部の支援を受けた**点が、活動の進展や成長にプラスに働いていた事例が多かったと感じます。また、その前提として、**自分たちのコアな強みをうまく自覚**されておられるとも思いました。

そのことが、活動の中心になっておられる方々の**自信につながり**、既存の枠組みや縦割りの壁を軽やかに乗り越え、「**新しい公共**」を生み出しているように感じました。

多様多彩な独自のコアと 様々な知見・経験・ネットワークを有する主体間の 「共創の場」 が生まれていた

近年の優良事例からは共通して、「**足し算ではなく掛け算**」 = 同質なものの加算でなく、「**異なるものの組合せ**」から生まれる新たな発想・熟成が、地域づくりのイノベーションを生んでいることを改めて感じます。

とりわけ、「つながり」として「**世代を超えたつながり**」を意識した事例が多かったことも印象的でした。片利的でなく、やりがいや手応え等を通じ、双方の新たな交流意欲が自然と生まれていている点も注目されます。

地域づくりのキーマンが、地域内外から、**多様多彩な独自のコアを持ち、それぞれに様々な知見・経験・ネットワークを有する主体**同士が交わる場所や機会を、積極的に・意識的につくることで、地域課題やアイディア実現の前に立ちはだかる壁の突破力が形成され、文字通り共に創りあげる**「共創」の場**が生まれていたように感じます。

「好き」「楽しい」「わくわく感」が 人を動かし、仲間を増やす

また、今年の発表の中では、実施手段あるいは推進手法の中に**「将来の夢」「地元のこれが好き」「やってみたい」「推し」「好き」**が絡むものが多く見受けられ、**「好き」「楽しい」「わくわく感」**というキーワードが複数見られたことが印象的でした。地域課題が複合化し,人口減少で担い手の規模感が小さくなる中、**仲間を増やすことの重要性**がますます高まっており、これらは「地域づくり」のなかで、より大事にしていくべき要素になると思います。

「地域づくり」の終点は、地域課題の解決＝ソリューションを得ることでありますが、単に難しい問題が解決した・しないではなく、**その過程で「特別な体験をする」「予想もしてなかった展開に出逢う」**ということが、取組の持続・発展や担い手の拡大に深く絡んでくるのだろうと思います。その意味からも、地域づくりは「明るく元気でいること」「楽しみながら取り組むこと」などのスタンスやプロセスが大事だと、改めて考えさせられた次第です。

「審査会特別賞」について

釜川地区の事例については、大学や各方面の専門家との協働・協業と「200 年以上続く取組を目指す」という心意気に、また、新河岸地区の事例については、こどもを主役とし、運営側に次の担い手となる若い人を組み込んでいこうとする熱意に審査会として共感し、選定したものです。

受賞された皆様には、表彰を機に、ますますご活発な取組を期待申し上げるとともに、全国各地の皆様が各事例をご参照され、機会がありましたら各取組現場をご訪問される等、当事者の皆様との交流等を通じ、個性的で魅力あふれる地域づくりの輪が、一層広がっていくことを期待しております。

令和6年度「地域づくり表彰」審査会 座長　坂 田 一 郎
（東京大学 地域未来社会連携研究機構 機構長 兼 工学系研究科教授）

別添資料３

令和６年度「地域づくり表彰」審査会
委員名簿

（○は座長、有識者委員は五十音順、敬称略）

（有識者委員）

	伊藤　聡子	フリーキャスター
○	坂田　一郎	東京大学 地域未来社会連携研究機構 機構長 兼 工学系研究科 教授
	三瓶　裕美	「つちのと舎」代表、総務省地域力創造アドバイザー、 地域おこし協力隊サポートデスク専門相談員
	瀬田　史彦	東京大学大学院 工学系研究科 准教授
	藤井　さやか	筑波大学 システム情報系社会工学域 准教授
	堀口　正裕	株式会社 第一プログレス 代表取締役社長 兼　TURNS プロデューサー

（共催・後援者委員）

	峰　達郎	全国地域づくり推進協議会 会長（唐津市長）
	太田　秀也	一般財団法人 国土計画協会 専務理事
	原田　文代	株式会社 日本政策投資銀行 常務執行役員
	藤田　昌邦	国土交通省 大臣官房審議官

以 上

別添資料４

←詳細はコチラ

国土形成計画（全国計画）概要

2023年（令和5年）7月閣議決定

新たな国土の将来ビジョン

計画期間：2050年さらにその先の長期を見据えつつ、今後概ね10年間

時代の重大な岐路に立つ国土《我が国が直面するリスクと構造的な変化》

地域の持続性、安全・安心を脅かすリスクの高まり
- 未曽有の人口減少、少子高齢化がもたらす地方の危機
- 巨大災害リスクの切迫（水災害の激甚化・頻発化、巨大地震・津波、火山噴火、雪害等）
- 気候危機の深刻化（2050年カーボンニュートラル）、生物多様性の損失

コロナ禍を経た暮らし方・働き方の変化
- テレワークの進展による転職なき移住等の場所に縛られない暮らし方・働き方
- 新たな地方・田園回帰の動き、地方での暮らしの魅力

激動する世界の中での日本の立ち位置の変化
- DX、GXなど激化する国際競争の中での競争力の低下
- エネルギー・食料の海外依存リスクの高まり
- 東アジア情勢など安全保障上の課題の深刻化

豊かな自然や文化を有する多彩な地域からなる国土を次世代に引き継ぐための**未来に希望を持てる国土の将来ビジョン**が必要

目指す国土の姿「新時代に地域力をつなぐ国土　～列島を支える新たな地域マネジメントの構築～」

デジタルとリアルの融合による
活力ある国土づくり
～地域への誇りと愛着に根差した地域価値の向上～

巨大災害、気候危機、緊迫化する国際情勢に対応する
安全・安心な国土づくり
～災害等に屈しないしなやかで強い国土～

世界に誇る美しい自然と多彩な文化を育む
個性豊かな国土づくり
～森の国、海の国、文化の国～

国土づくりの戦略的視点　①民の力を最大限発揮する官民連携　②デジタルの徹底活用　③生活者・利用者の利便の最適化　④縦割りの打破（分野の垣根を越える横串の発想）

※南北に細長い日本列島における国土全体での連結強化
※広域レベルからコミュニティレベルまで重層的な圏域形成

国土構造の基本構想「シームレスな拠点連結型国土」

デジタルの徹底活用による場所や時間の制約を克服した国土構造への転換

〈広域的な機能の分散と連結強化〉
- ◆ 中枢中核都市等を核とした広域圏の自立的発展、日本海側・太平洋側二面活用等の広域圏内・広域圏間の連結強化を図る「全国的な回廊ネットワーク」の形成
- ◆ リニア中央新幹線、新東名・新名神等により三大都市圏を結ぶ「日本中央回廊」の形成による地方活性化、国際競争力強化

階層間のネットワーク強化

〈持続可能な生活圏の再構築〉
- ◆ 生活に身近な地域コミュニティの再生（小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生）
- ◆ 地方の中心都市を核とした市町村界にとらわれない新たな発想からの地域生活圏の形成

- ➢ **東京一極集中の是正**（地方と東京のwin-winの関係構築）
- ➢ **国土の多様性**（ダイバーシティ）、**包摂性**（インクルージョン）、**持続性**（サステナビリティ）、**強靱性**（レジリエンス）の向上

《国土の刷新に向けた重点テーマ》

デジタルとリアルが融合した地域生活圏の形成

- 「地方の豊かさ」と「都市の利便性」の融合
- 生活圏人口10万人程度以上を一つの目安として想定した地域づくり（地域の生活・経済の実態に即した市町村界にとらわれない地域間の連携・補完）
- 「共」の視点からの地域経営（サービス・活動を「兼ねる、束ねる、繋げる」発想への転換）
  - ✓ 主体の連携、事業の連携、地域の連携
- デジタルの徹底活用によるリアルの地域空間の質的向上
  - ✓ デジタルインフラ・データ連携基盤・デジタル社会実装基盤の整備、自動運転、ドローン物流、遠隔医療・教育等のデジタル技術サービスの実装の加速化
  - ✓ 地域交通の再構築、多世代交流まちづくり、デジ活中山間地域、転職なき移住・二地域居住など、デジタル活用を含めたリアル空間での利便性向上
- 民の力の最大限活用、官民パートナーシップによる地域経営主体の創出・拡大

相互連携による相乗効果の発揮

持続可能な産業への構造転換

- GX、DX、経済安保等を踏まえた成長産業の全国的な分散立地等
- 既存コンビナート等の水素・アンモニア等への転換を通じた基幹産業拠点の強化・再生
- スタートアップの促進、働きがいのある雇用の拡大等を通じた地域産業の稼ぐ力の向上　等

グリーン国土の創造

- 広域的な生態系ネットワークの形成、自然資本の保全・拡大、持続可能な活用（30by30の実現、グリーンインフラの推進等を通じたネットワーク化）
- カーボンニュートラルの実現を図る地域づくり（地域共生型再エネ導入、ハイブリッドダム等）等

人口減少下の国土利用・管理

- 地域管理構想等による国土の最適利用・管理、流域治水、災害リスクを踏まえた住まい方
- 所有者不明土地・空き家の利活用の円滑化等、重要土地等調査法に基づく調査等
- 地理空間情報等の徹底活用による国土の状況の見える化等を通じた国土利用・管理DX　等

新しい資本主義、デジタル田園都市国家構想の実現

地域の安全・安心、暮らしや経済を支える
国土基盤の高質化
- 防災・減災、国土強靱化、生活の質の向上、経済活動の下支え〔機能・役割に応じた国土基盤の充実・強化〕
- 戦略的マネジメントの徹底によるストック効果の最大化
- ✓ DX、GX、リダンダンシー確保、安全保障、自然資本との統合等の観点からの機能高度化
- ✓ 賢く使う観点からの縦割り排除による複合化・多機能化・効果最大化
- ✓ 地域インフラ群再生戦略マネジメント等の戦略的メンテナンスによる持続的な機能発揮

地域を支える人材の確保・育成
- 包摂社会に向けた多様な主体の参加と連携
- こどもまんなかまちづくり等のこども・子育て支援、女性活躍
- 関係人口の拡大・深化

分野別施策の基本的方向

○地域の整備（コンパクト＋ネットワーク、農山漁村、条件の厳しい地域への対応等）
○産業（国際競争力の強化、エネルギー・食料の安定供給等）
○文化・スポーツ及び観光（文化が育む豊かで活力ある地域社会、観光振興による地域活性化等）
○交通体系、情報通信体系及びエネルギーインフラ
○防災・減災、国土強靱化
○国土資源及び海域の利用と保全（農地、森林、健全な水循環、海洋・海域等）
○環境保全及び景観形成

計画の効果的推進
広域地方計画の策定・推進

○地理空間情報等を活用したマネジメントサイクルと評価の実施
○広域地方計画協議会を通じた広域地方計画の策定・推進